

ところが、人には、「メシ食えなくなるよ」と言いながら、自分の事は忘れてるんですね。(笑)

「おとうさん、そういうあなたは、明日からどうするのよ」

って事ですね。(笑) さあ、大変です……。

振り返ったら、家庭の事なんか、もうさら・忘れてる。自分本位なんです。面白くないから辞める。思うようにならないから辞める。辞めたら家がどうなるのか、全然考えていない訳です。愚かなものですね。

三、疑問と追求

まあ、幸いにして、長い間専門的な事をやっていましたから、いろんな事を知っていて、今度は自分で商売を始めるようになったんですね。

そして、自由になったので、仕事の合間で、「何かあるんじゃないか」と、また考

えるようになっていった訳です。

私は会社に勤めていた時に、勤め人というのは時間がないし、何にも出来ない。でも、個人で商売やっている人は、時間があつて楽でしょうがない——そういうふうな事を思っていたんですよ。

ところが、自分で商売をやってみたら、時間が全然ない訳です。自分がサボったら、それだけマイナスになっていく訳ですからね。

しかし、自分でやっている時には、時間を自分で造る事は出来るんですね。勤めていた頃は、サボったら駄目になるけど、自分の商売だったら少しくらい時間的に自由なんです。まあ、これはルーズですけどね。しかしルーズになっても、別にどうという事はない訳です。

そういう時間の中で私は、「何故、わたしは会社を辞めて、何故、自分で仕事をしようになったのだろう？ これは何かあるに違いない」と考え始めた訳です。

その辺から、この法印というのが、そしてまた、三二〜三歳の頃の疑問が、何か出て来始めたんですよ。私はその時、

一、人間というものは、一体、何故生まれて来るんだらう？

一、何故、死んでしまうのだらう？

一、何故、こうやって生きているのだらう？

一、何故、私は短気で、喧嘩をして辞めてみたりと、そうなるんだらう？

——何か変な事を考え始めたんですね。当然ですけれど、自分が考えても分かる訳がないですね。

そして、実はこの疑問を解明する為に、いろいろな処を歩いた訳です。易者とか、他にもいろんな宗教関係のような処を探して歩いたんですね。

「私は今、このように思っているんですけども、人間というものが何故生まれ、何故終わっていくのかということが、もしお分かりでしたら、教えて戴きたい」

と、尋ねても、「それはこういう事なんですよ」と話をしてくれる方が、やはり一人もいなかった訳ですよ。

それで、仕方がないので、最後に私の檀家の寺に行って、住職に尋ねたんですね、「私はこういう疑問があるのですが、和尚さん、分かる事あったら教えて貰えませ

んでしようか……」

「あなたがそのように仰っている事に対しては、私はちよつと返事は出来ない。

しかし、寺に沢山の本が置いてあります。その本を何時でも自由に読んで貰って結構ですから、先ずそれを読んでみられたら如何でしょうか」

と、そう言われたんですね。

しかし、元来私はこういう本を読むのは嫌いなんです。苦手なんですよ。

ということは、そのお坊さん自体も分からない訳ですね。で、その時和尚さんに、

「それじゃあ、大変申し訳御座いませんけれども、お寺の本堂を、ある期間貸してくださいませんか」

「どうされるんですか？」

「いや、これはお寺さんには大変申し訳無いんですが、お寺さんの座る処に座らせて貰って、よく自分を瞑想して、そしてお経でも上げれば、何か分かるんじゃないかと思ひまして……」

と、もうこうなってきた訳ですよ。(笑)

「そういう事なら、法事が無い時には、どうぞお使いください」と仰つてくださったんですね。

それから毎日行つて、『般若心経』を上げたり、いろいろな事を始めたんですよ。鐘をゴーンと叩くと、何か気分がスーツとしていく訳ですね。これをやっていけば、「人間とは何ぞや」が分かるんじゃないだろうか、また簡単な事を考えた訳です。そして、「何かあるのかな、何かあるのかな……」と、盛んにやっていた訳ですよ。——そんなものは、ある訳が無いですねえ。(笑)

次回に続く——次回更新予定は、一月下旬頃です。